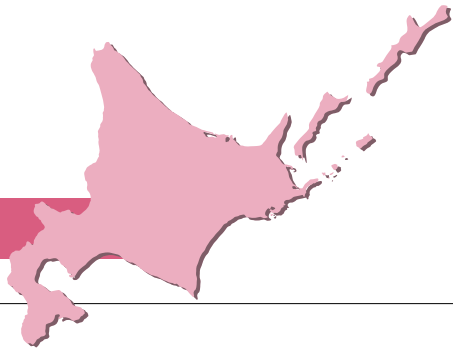
2月の道内景況　情報連絡員レポート

景況感に回復見られず　足踏み状態つづく

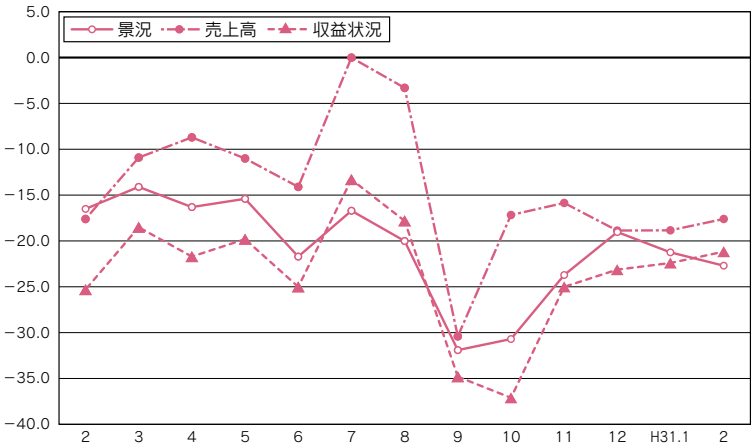


概　況

主要DI値の推移では、「売上高」「収益状況」が引き続き若干改善したが、「景況」は悪化した。

業種別に見た前月との比較では、製造業では「売上高」「収益状況」で若干改善したが、それ以外の全項目が悪化。非製造業では「販売価格」「雇用人員」で若干改善したが、それ以外の全項目が悪化した。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	1 月	2 月	前月比	1 月	2 月	前月比	1 月	2 月	前月比
業界の景況	△21.1	△22.6	△1.5 ↘	△21.9	△23.3	△1.5 ↘	△20.7	△22.2	△1.5 ↘
売　上　高	△18.9	△17.9	1.0 ↗	△28.1	△20.0	8.1 ↗	△13.8	△16.7	△2.9 ↘
収 益 状 況	△22.2	△21.4	0.8 ↗	△31.3	△26.7	4.6 ↗	△17.2	△18.5	△1.3 ↘
販 売 価 格	4.4	3.6	△0.9 ↘	12.5	6.7	△5.8 ↘	0.0	1.9	1.9 ↗
取 引 条 件	△5.6	△6.0	△0.4 ↘	△6.3	△6.7	△0.4 ↘	△5.2	△5.6	△0.4 ↘
資 金 繰 り	△5.6	△8.3	△2.8 ↘	△12.5	△16.7	△4.2 ↘	△1.7	△3.7	△2.0 ↘
雇 用 人 員	△15.6	△13.1	2.5 ↗	△6.3	△6.7	△0.4 ↘	△20.7	△16.7	4.0 ↗

（凡例）　30 以上　10 ～ 29　9 ～△ 10　△ 11 ～△ 29　△ 30 以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D･I値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・昨年末の製品の売れ行きが芳しくなかったこともあり、昨年より生産は抑えている模様。（水産食料品／留萌）
・各社の値上げが発表され、組合員への影響も出ている。原材料、包材、送料、人件費（人手不足も含み）等の高騰により各社苦労している。特に量販店へ商品を納入しているところは値上げ交渉もなかなか受け入れてもらえず大変な状況。（めん類／全道）
・1月は寒暖の差はあったものの比較的穏やかな天候が続き、様々な行事も滞りなく開催されたようだが、消費マインドが今一つ盛り上がりに欠けていた。消費者の低価格志向も変わらずで、スーパー側も売上を作るのに苦労している。（飲料／全道）
・販売価格は前年より上がっているが、仕入価格がそれを上回る上昇で収益悪化となっている。（一般製材／幕別）
・2月度の出荷数量、売上高については、路盤用で前年対比増加したが、生コン用と全体で前年対比減少した。（窯業・土石製品製造業／札幌・砕石）
・2月の生コン出荷量は181千m^3で、前月比は1.2％増、前年同月比は4.7％増となった。地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は29分会（協組）中、15分会（協組）で前年（増加は16分会（協組））を下回った。前年同月と比較して、増加したのは札幌、苫小牧、後志など。一方、減少したのは小樽地区、富良野地区、十勝地方などであった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・会員事業所の状況
室蘭製作所での新造船建造撤退後は、会員事業所の仕事量不足が続いている。配管工、仕上工、配線電気工、船大工の職種は過剰人員が発生し特に厳しく、道内の造船所に出張等で対応している。修繕船は4月から仕事量を確保しているが、7月以降は山谷があり厳しい状況は続くと予想される。
造船業界の状況
海事振興連盟の尽力もあって、今年は工業高等学校に6校目の造船科が開設される予定で、造船業をめざす若者が一人でも多く誕生することを願っている。（金属製品／室蘭）
・団地内では、金属加工、印刷関係の業種など材料費・運搬費の高騰など大幅にコストアップしているが、なかなか製品には価格転嫁できないとの声が多い。（金属機械工作／札幌）
・昨年度と比べると、売上・収益・操業度、ともに大きく減少したとの事。消費税増税を前に、今後の景況が心配だという意見が多かった。（金属機械工作／江別）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・2月は各商品ともに売り上げが停滞気味であった。季節商品は春物の動きが良くない。卸団地の再整備は順調に進行中。年内には新ビルが完成する予定。（各種商品／札幌）
・年明けから流通菓子業界においては厳しい推移が続いている。物流コストなど収益を圧迫する状況が続く反面、価格には転嫁できない現状が続いている。バレンタインなどでチョコレートの活性も期待されていたが伸びなかった。（菓子／全道）
・全体的に売上げが今一つ振るわない中で、呉服、医療・医薬関連、自動車関連、生活・住宅関連、外食関係、インターネット利用等が好調であった。旅行関連も高い売上げを堅持した。（各種商品／札幌）
・前年比較：物販見込　105.0％、金融　99.4％
食料品・ドラッグストア等の生活必需品の売上げが堅調で、非対面売上げ（インターネット販売）の増加と、厳冬の影響から燃料関係の売上増加で物販は前年を上回った。
キャッシングにおいては、ほぼ前年並みとなったが、収益では、同業他社との競争激化と加盟店手数料の取引条件低減により悪化している。（各種商品／旭川）
・2月は記録的寒波、記録的少雪となり、後半からは気温の高い日が続いた。市場内ではニシンが安く売れているほか、春を感じる葉物類も出ている。だが客入りはあまりよくない。（各種商品／小樽）
・2月取扱高は、前年比98％の状況。今年は雪が少なく天候に恵まれたが、駅前商店街の人通りは閑散として郊外ショッピングモールに人が集中していた。「札幌雪まつり」でのインバウンド顧客が、地方の観光ホテルにも宿泊するなど少しずつ観光客が増加している。（各種商品／苫小牧）
・2月の各組合員の状況は、1月と比べると、多くの組合員が売上については好調だったとの声が多かった。ただ依然として、衣料品関係については厳しい状況が続いているとのこと。
2月の取扱高については、全体的には、前年を大きく上回る取扱高となった。部門別では、キャッシング部門とマイカーローン部門のマイナスをショッピング部門でカバーした状況。（各種商品／釧路）
・2月の気温は厳しく冷え込む日が数日あったが、それ以外は平年並みに経過したため、暖房用燃料の需要は前年並みであった。車両用燃料は降雪量が例年に比べ1/2以下だったため、除排雪車の稼働も前年に比べ1/2以下となり、軽油の需要が大幅に減少し、全体としては前年を下回る状況となっている。人手不足は依然として解消されていない。（燃料小売業／稚内）
・今年の2月はドカ雪がなく、除雪機の修理が少なかった。雪解けがかなり早いので3月の自転車に期待している。（自転車・自動車／全道）
・2月は雪まつり、中国の春節があり観光客がかなり増加した。ツアーでの日程のためフリーの居酒屋・料理店はあまり売り上げは伸びなかった。（各種食料品／札幌）
・売上高対前年同月比6.25％増加。引き続きインスタントコーヒー等の嗜好品が好調に推移。（野菜・果実／札幌）
・中国の旧正月のため、外国人の入店が多かった。2月の異例な極寒で平日は客足も遠のいたが、週末は「和商の日」の売り出しで、市民客も若干増えた。価格に関しても、去年のような野菜高騰も見られず、平年通りだった。（鮮魚／釧路）
・原油価格の高値基調の影響を受け、2月もガソリンなど石油製品の小売り価格は高値で推移している。ついては、消費者の節約がより進んでいること、さらに、市況を悪化させる要因なども解消されないまま販売量も大幅に落ち込むなど、販売事業者にとっては極めて厳しい状況が続いている。
また、2月の販売動向を見ると、寒波、降雪などの影響もあって、一部には灯油の販売量が伸びているとの情報もあるが、消費者の節約志向を反映した買い控えがあり、末端石油販売業者にあっては、値上げに踏み切れないなど厳しい状況。（燃料／全道）
・雪解けも早く、動きも良い。販売価格も少し高くなっているとのこと。また、人の確保が困難だという声をよく聞く。（中古自動車／札幌）
・道内の中小ITシステム受託開発会社は相変わらず深刻な人手不足が続いている。今年も3月1日から20年度採用の就職活動が本格的にスタートするが、業種を越えてIT人材の採用が増加していること、IT人材の賃金が上昇していること、ゴールデンウィーク前に内定を得て活動を終了したい学生が多いと予測されていることから、さらに中小IT企業の新卒採用の厳しさが続くものと思われる。道内の中小ITシステム受託開発会社の人手不足は熟練（中堅クラス）技術者や高度な技能を持つ技術者の不足にも悩んでいる。若手技術者の指導育成や発注元からの高度な技術レベルを要求される案件が増加しているものの、高賃金や大手指向への誘惑で離職する中堅技術者が増えているためだ。そのため、道内の中小IT企業は離職防止のための人件費増や福利厚生制度の改善を含めて、思い切った働き方改革を推進せざるを得ない状況となっている。（ソフトウェア／全道）
・2月の十勝川温泉宿泊入込数は30,957人　昨年度比614人増、102％だった。北海道ふっこう割等の効果が継続していることから、全体として好調を維持した。（旅館／音更）
・仕事量に多少の増加がみられるが、収益改善にまでは至っていない。（自動車整備／苫小牧）

非製造業（建設・運輸業）

・副資材の価格が上昇している。（塗装工事／札幌）
・2月の業況は、年度末工事を抱えて竣工している会社はある程度、労働力に余裕が感じられ官公庁の次年度に向けた工事物件に着目しているようだ。特に学校の大型改築工事が多いようだが住宅物件は減少している。（電気工事／全道）
・組合員の業況
修繕工事が主な収入源であることから、凍結解氷・漏水修理が主なので、積雪が多くなってきている。除雪を伴う修繕工事は、雪解け後に行う場合もあることから、仕事量としては最低の月となっている。
問題点
仕事量が少ないことから、人員の削減など支出を抑えることとなるため、緊急な事案に対応出来ない場合が想定される。
地域の実情
厳しい冬の顔と暖かい春の気配が入り交じる時期。春に向けての準備をしながら、日常業務をこなしているが、新年度に向けての予算や人事、また、31年度は選挙の年であることから、多種多様な情報が飛び交って徐々に活気が出てきている。（管工事／名寄）
・雪解けが早く、走行しやすくなっているが、雪に関係する業者には大変影響あり。また燃料等にも及んでおり、経費は減っていると思われる。（一般貨物自動車運送／小樽）
・馬鈴薯・玉葱ともに前月同様に出荷量が減少した。全体的に低水準の出荷状況。輸送モードはJRコンテナ輸送が優先されている。引越し繁忙期に入り、トラックに転換されてくると思われる。一般カーゴについては昨年並み。鉄骨・部材等建設関係が前月同様に好調。域内輸送は昨年並みの状況。気温上昇や融雪の早さにともない、飲料ほか一部の荷動きが良くなっている。一方石油関連の動きは鈍った。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比6.0％減少。乗務員数は前年同月比7.4％減少。一月分チケット取扱高は前年同月比4.1％減少。（一般乗用旅客／旭川）